

岩手県の 土地改良

2015(5月) No.568

■発行所／岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号
TEL(盛岡)019(631)3200 FAX(盛岡)019(631)3260
■編集発行人／田山 清 ■印刷所／永代印刷株式会社

<http://www.iwatochi.com>



CONTENTS

- 水土里ネットいわて第57回通常総会を開催 2
- 平成26年度土地改良功労者表彰 3
- 平成26年度東北・北海道土地改良事業団体
連合会連絡協議会農地集団化事業表彰 3
- 町井アグリフレンド・ファームが
農林水産大臣賞を受賞 4
- 多面的機能支払が法制化に 5
- 水土里ネット役員研修会を開催 5
- 復興および農業農村整備の更なる推進に向けて 6
- 入札制度の改善や技術者不足
に対応した運用改善を要望 6
- 新規採用職員の紹介 7
- 平成26年度水土里ネットいわて資格取得者 7
- 平成27年度水土里ネットいわて事務組織図 8

「ここであってる？」 花巻市立太田小学校 鎌田志菜
H26小中学生による「美しく豊かな村づくり」絵画コンクール 小学校高学年の部 入賞作品



水土里ネットいわて 第57回通常総会を開催

提案9議案を可決承認

本会（及川正和会長）では、3月27日、岩手県達増拓也知事、岩手県議会千葉伝議長をはじめ、東北農政局中西憲雄農村計画部長、県農林水産部伊藤千一農村整備担当技監ほか多数の来賓出席のもと、第57回通常総会を開催し、平成27年度事業計画など9議案を審議した。

開会にあたり及川会長は、「コメ余りを要因とする米価の下落による農家経済への影響や、合意が近いとされるTPP交渉の行方など先を見通すことの難しい農業情勢ではあるが、こうした状況にあっても、ほ場整備をはじめとする生産基盤の整備をより一層進めていく必要がある。本会としても、土地改良区が本来の役割を果たしていけるよう、農地中間管理事業への協力をはじめ、日本型直接支払い制度にかかる普及、広報と活動支援、そして計画的な農業水利施設の補修、更新に向けた技術的な指導など、土地改良区の組織運営基盤強化へ向けた支援を行って参りたい」と述べた。

来賓祝辞では、達増知事が「本県の基幹産業である農業の活力を高めていくためには、核となる担い手の育成と、農地中間管理事業やほ場整備事業を活用した農地集積の促進が重要である。本年4月から法制化される日本型直接支払制度の取組の拡大については、市町村への事務支援や活動組織への技術指導などの役割を担っていただくことを期待しており、引き続き皆様



【挨拶をする及川会長】

の一層の御協力をお願いする」と祝辞を述べた。

引き続き、平成26年度土地改良功労者表彰が行われ、永年にわたり農業農村整備事業の推進や、土地改良区運営に貢献した役員4名と職員10名に対し、及川会長が表彰状と記念品を授与した。このほか、農地集団化表彰では徳田第二地区（鹿妻穴堰土地改良区）と更木新田地区（岩手中部土地改良区）が優良地区を、菊池清則氏（江刺猿ヶ石土地改良区）が功労者表彰をそれぞれ受賞した。

表彰式終了後、安代土地改良区米川次郎理事長を議長に選任し、議案審議が進められた。

議事では、平成25年度一般会計収入支出決算、平成26年度一般会計収入支出二次補正予算及び平成27年度事業計画など9議案が原案どおり全会一致で可決承認した。

最後に、「国が農業・農村整備予算を確保し、水田の整備や農業水利施設の更新、被災地域の復興、TPP交渉への対応、水土里情報システムの活用、県が多面的機能支払制度の対象農地拡充」等を求める決議文を満場の拍手で採択して総会を終了した。

決 議

- 一 国においては、農業者の要望、地域からの要請に応え、安定的・計画的な農業・農村の整備が進むよう補正予算を含めた予算を確保すること。
- 一 農地集積や生産費低減の前提である水田の整備を進めるとともに、農業用水の安定的な供給を確保するため、老朽化した農業水利施設の更新を一層進めること。
- 一 生産性・収益性の一段と高い農業の展開によって東日本大震災津波からの復興を実感することができるよう、復興予算を確保するとともに集中復興期間後も全額国費で賄うこと。
- 一 TPP交渉に当たっては、衆参両院の国会議決を踏まえ、日本の食の安心・安全を担い、多面的機能を発揮している農業・農村とこれを支える農家の生産意欲に、悪影響を及ぼすようなことは、国として断固行わないこと。
- 一 農地中間管理事業をはじめとする農業の構造改革の推進に当たっては、土地改良区が有する技術と経験を活かすとともに水土里情報システムを活用すること。
- 一 県においては、地域資源の適切な保全管理を通じて、構造改革を後押しするよう、より多くの農地が多面的機能支払制度の対象となるよう努めること。

平成27年3月27日 岩手県土地改良事業団体連合会 第57回通常総会
「農業・農村のセーフティネットを目指して」

—平成26年度土地改良功労者表彰—

●役員の部

氏 名	所 属	役 職 名
下 河 原 正 夫	鹿 妻 穴 堰 土 地 改 良 区	総 括 監 事
石 川 隆 男	西 和 賀 土 地 改 良 区	理 事
高 橋 昭 貴	西 和 賀 土 地 改 良 区	理 事
佐 藤 富 夫	夏 川 沿 岸 土 地 改 良 区	総 括 監 事

●職員等の部

氏 名	所 属	役 職 名
中 村 浩 之	鹿 妻 穴 堰 土 地 改 良 区	事 業 課 事 業 第 一 係 長
山 本 陽 一	鹿 妻 穴 堰 土 地 改 良 区	事 業 課 事 業 第 二 係 長
越 場 紀 寿	鹿 妻 穴 堰 土 地 改 良 区	総 務 課 総 務 係 技 師
吉 田 裕 司	豊 沢 川 土 地 改 良 区	業 務 課 工 務 係 主 任
山 影 久 吾	猿ヶ石北部土地改良区	施 設 管 理 人
藤 原 達 也	宮 守 村 土 地 改 良 区	係 長
渡 辺 めぐみ	胆 沢 平 野 土 地 改 良 区	総 務 課 会 計 係 長
阿 部 知 行	胆 沢 平 野 土 地 改 良 区	水 利 整 備 課 主 事
石 川 美 香	胆 沢 平 野 土 地 改 良 区	賦 課 徴 収 課 主 事
鈴 木 克 子	須 川 土 地 改 良 区	(前) 事 務 局 長



【及川会長（前列中央）と土地改良功労者表彰受賞者】

—平成26年度東北・北海道土地改良事業団体連合会 連絡協議会農地集団化事業表彰—

●優良地区

・ 徳田第二地区(鹿妻穴堰土地改良区)

・ 更木新田地区(岩手中部土地改良区)

●功 労 者

・ 菊 池 清 則(江刺猿ヶ石土地改良区)

町井アグリフレンド・ファームが農林水産大臣賞を受賞 — 全国土地改良功労者等表彰に本県から2団体、2氏が受賞 —

3月25日、農業農村整備優良地区コンクール並びに第56回全国土地改良功労者表彰式が、シェーンバッハ・サボー（東京都 砂防会館）にて行われた。

この農業農村整備優良地区コンクールは、農業農村整備の実施を契機に、農村振興や地域活性化等に成果を上げている優良地区（団体）を表彰している。また、全国土地改良功労者表彰は土地改良区の運営に著しい功績があった個人と、良好な運営であると認められる土地改良区を表彰するもので、総勢9団体、103名、124土地改良区が受賞した。

開会に当たり、主催者である野中広務 全国土地改良事業団体連合会会長が「全国水土里ネットとして東日本大震災で被災された方々のため、今後とも皆様と一緒に復旧復興に力を尽くしていく。本日受賞される方々におかれては、困難な運営に永年携わられ優秀な成績を挙げられた経験と実績をもとに、今後も引き続きそれぞれの立場においてご指導頂き、土地改良事業の推進と地域振興にご尽力賜りたい」と式辞を述べた。



【式辞を述べる野中広務 全土連会長】

続いて、来賓の林芳正 農林水産大臣は「本日受賞される皆様方の日頃のご尽力によって農業農村整備事業が成果を上げることができた。今後も、一層の事業推進に努めていく」と祝辞を述べた。

表彰では、本県から町井アグリフレンド・ファーム（花巻市東和町）が農業農村整備優良地区コンクール農村振興整備部門で最高位



【三浦進 農村振興局長から表彰状を授与される薄衣利幸 町井アグリフレンド・ファーム組合長（写真右）】

となる農林水産大臣賞の栄を受けた。また、全国土地改良功労者等表彰の個人表彰に渡邊幸貫 江刺猿ヶ石土地改良区理事長と佐々木秀彦 岩手山麓土地改良区事務局長、団体表彰の金章に市野々土地改良区（千葉大作理事長）、銀章に真打堰土地改良区（佐々木久吉理事長）がそれぞれ受賞し、表彰状を授与された。



【渡邊幸貫 江刺猿ヶ石土地改良区理事長（写真左）と佐々木秀彦 岩手山麓土地改良区事務局長（写真右）】



【千葉大作 市野々土地改良区理事長（写真左）と佐々木久吉 真打堰土地改良区理事長（写真右）】

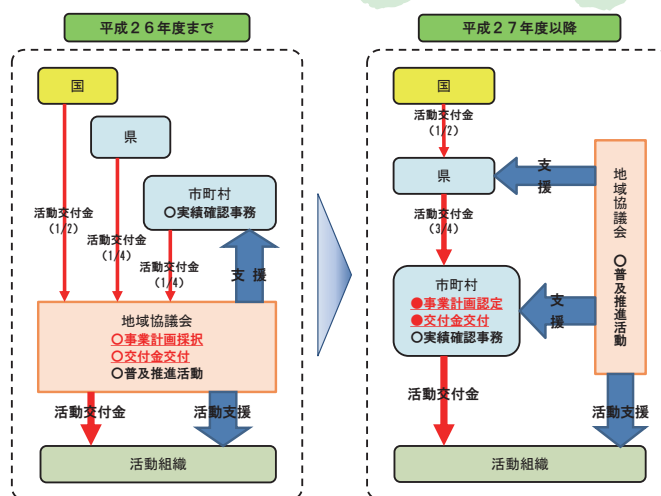
多面的機能支払が法制化に — 事務の主体が地域協議会から市町村へ —

平成26年6月20日に公布された多面的機能支払、中山間地域等直接支払、環境保全型農業直接支払を一つの制度とする「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」が、平成27年4月1日に施行された。

このことに伴い、今まで地域協議会が行ってきた事業計画の採択や交付金の交付等の業務を、市町村が行うこととなった。

また、既に多面的機能支払に取り組んでいる活動組織や、新たに取組む活動組織は、事業計画を作成し市町村に提出することとなる。

なお、地域協議会は普及推進活動を行う組織として、事業計画認定等に関する市町村事務の支援、制度説明会の開催や活動組織に対する活動支援を引き続き行っていく。



【多面的機能支払制度における市町村と地域協議会の役割】

水土里ネット役員研修会を開催 — 初春に土地改良区の発展を願う —

本会では、1月21～22日の両日、盛岡市つなぎ温泉のホテル紫苑において、土地改良区役員320名の出席のもと、平成26年度水土里ネット役員研修会を開催した。

研修会の冒頭、挨拶に立った及川正和本会会長は「農業農村整備に携わる我々の果たすべき役割は、『田園回帰』を可能とするような農業生産による所得の確保であり、農村生活の基盤を整えることである。地方の人口減少に歯止めをかけ、地方創生に結び付けていく。これが土地改良区に期待されている大きな責務である」と述べた。

続いて、来賓の米田博次東北農政局整備部長が「国では農政改革として4つの柱を基本とした“農林水産業・地域の活力創造プラン”を掲げた。今後、農政の大きな動きに対し従来以上に国、県、土地改良区が連動した農業農村整備事業の推進を行う必要がある」と挨拶した。



【挨拶する米田整備部長】

研修では、米田整備部長が“今後の農業農村整備の展望”と題して農林水産業・地域の活力創造プランと管内における国営事業の実施状況や関係予算などについて説明した。

続いて、伊藤栄悦県農村建設課総括課長が県の重点的な取り組みとして、水田の大区画化を利用集積と一体的に推進していることや、農業用ダム・ため池の防災・減災対策の推進、及び津波被災農地の復旧復興の状況報告、農地中間管理事業の取り組み事例などを紹介した。



【講演する森田キャスター】

初日の最後には、各土地改良区で課題となっている賦課金の未納対策について、山形県の野川土地改良区長岡孝総務課長と土屋貴浩総務係長が、各集落に配置する“協力員”の体制づくりとその効果や、早期に未納者の状況を把握し対策を講ずることについて、具体的な事例を交えて説明した。

2日目は、お天気キャスター森田正光氏が“近年の異常気象と災害”と題し講演した。気象の状態や、異常気象の起こる仕組み、さらに地球温暖化の進行の速さに対する動植物の対応能力と、それらが示す未来の暗示について、ユーモアを交えながら参加者を引き付けて放さない講演であった。

復興および農業農村整備の更なる推進に向けて — 岩手県議会農業農村整備推進議員クラブ通常総会を開催 —

3月4日、岩手県議会農業農村整備推進議員クラブが通常総会を開催した。

開会にあたり、小田島峰雄会長が「農政を巡っては、農協改革が進められているが、一方では米価の大幅な下落を始めとする課題が山積している。議員クラブとして、コメの生産コストの引き下げを図るべく、農業農村整備を進めていくため、来年度もしっかりと活動を展開していく必要がある。震災からの復興および農業農村



【挨拶する小田島会長】

整備の更なる推進に向けて、今後も一体となって頑張っていきたい」と挨拶した。

また、事務局を務める本会の及川正和会長が、「米価が下落し、厳しい農業情勢である今こそ、生産基盤の整備や老朽化した水利施設の維持・更新を、より一層進めていく必要がある。この推進にあたっては、土地改良区の下支えが不可欠であり、農業農村整備の推進とともに、多面的機能支払制度等の新たな政策を果たす土地改良区の役割についてご理解をいただき、本県農業の発展に向けた活動に絶大なるご支援を賜りますようお願いします」と挨拶した。

議事では、平成26年度活動状況報告並びに収入支出決算、平成27年度活動計画並びに収入支出予算など4議案が原案どおり可決承認した。

総会に続いて行われた研究会では、伊藤千一県農林水産部農村整備担当技監が、本県の農業農村整備の課題と取り組むべき事項について、また、国や県の予算の状況について説明した。

入札制度の改善や技術者不足に対応した運用改善を要望 — 岩手県議会農業農村整備推進議員クラブとの懇談会を開催 —

2月16日、岩手県土地改良設計協会と岩手県農業土木技術協議会は、岩手県議会農業農村推進議員クラブとの懇談会を開催した。議員クラブから、小田島峰雄会長をはじめ工藤勝子副会長、岩淵誠幹事長、高橋元副幹事長、高橋孝眞理事が出席し、県農林水産部からは小原敏文部長、伊藤千一農村整備担当技監、伊藤栄悦農村建設課総括課長が出席した。

懇談会では、土地改良設計協会から入札制度の改善、国営事業等の業務の参加についての2項目、農業土木技術協議会からは平成27年度農業農村整備事業関係予算の確保、工事の品質確保及び施工効率の向上対策、技術者等の不足に対応した運用改善についてなど5項目について要望を行った。

これに対し、小田島会長から「皆様には、震災直後から復旧、復興の最前線で活躍されていることに対し、心から感謝申し上げます。国の農政改革を推進していくためには、ほ場整備などの生産基盤の整備等を一層進めて行かなければならない。限られた予算の中で、皆様のより一層

のお力添えが必要となる。本日の要望を関係機関に働きかけて参りたい」と挨拶した。

続いて、小原農林水産部長から「地方創生には農地の基盤整備は重要な課題であり、県としてもしっかりと取り組んで行かなければならないと強く認識している。また、県では本年を『本格復興邁進年』と位置付け、復興の質も高めていくことを目指している。農業農村整備事業を力強く推進していくので、皆様には、一層の御理解と御協力をお願いしたい」と挨拶した。

最後に、伊藤農村建設課総括課長が、国・県の予算の状況について説明し、閉会した。



【懇談会の様子】

新規採用職員の紹介



太田 佳奈子(おたかなこ)
総務管理部 総務課 主事



川村 理奈(かわむらりな)
総務管理部 管理指導課 主事



高橋 颯(たかはし そう)
農村振興部 農村整備課 技師



平野 海芳(ひらの みか)
農村振興部 換地課 主事



佐藤 修希(さとう なおき)
農村振興部 環境整備課 技師補



小澤 尚造(おざわ しょうぞう)
農村振興部 資源保全推進室
農地・水・専門員(嘱託)

平成26年度水土里ネットいわて資格取得者

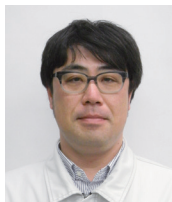
○技術士補(4名)



【生内 修】



【藤井 純】



【林 武男】



【吉田 長貴】

○土地改良専門技術者(2名)

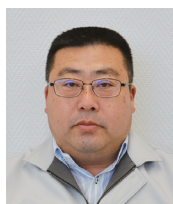


【本宿 悌之】



【藤井 純】

○農業水利施設機能総合診断士(3名)



【中村 政美】

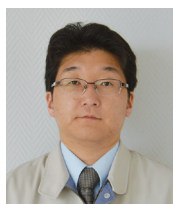


【工藤 将英】



【工藤 浩一】

○土地改良補償業務管理者(1名) ○2級土木施工管理技士(1名)



【高橋 敬史】



【熊谷 英則】

平成27年度 水土里ネットいわて 事務組織図

